

もり な さ 森 那沙さん

学校教育学部
言語系コース3年

平成9(1997)年、姫路市生まれ。県立飾西高校を卒業後、28年に入学。1年時にボランティアステーションの学生スタッフとなり、ボランティア活動を開始。現在は同委員長を務めるほか、あしなが育英会、生涯学習サポート兵庫、加西市ユニテリアーダークラブなど複数の団体に積極的に活動している。学内では文化部会長、茶道部部长も兼務し、オーケストラ部にも所属している。



「学生ボランティアと支援者が集う全国研究交流集会」での交流プログラムの様子



キラリな人

自分を待っていてくれる人がいるそれが活動の原動力です

学校教育学部3年で、ボランティアステーション学生スタッフの委員長を務める森那沙さんの週末は忙しい。掛け持ちする複数のボランティア団体やイベントの実行委員会に顔をだし、子どもたちの相手をしたり運営会議に出席したりと活動に精を出すからだ。

「先週は各地で活動が重なって、2日間の車の走行距離は460キロでした。でも、子どもたちが『楽しい』と喜んでくれるのが一番うれしいので、全然苦ではないです。自分を待っていてくれる人がいると思ったらわくわくします」と屈託のない笑顔を見せる。

元来子ども好きで、特別支援教育に興味を持っていたという森さんは、「障害のある子どもたちに関わることができれば」と入学早々ボランティアステーション学生スタッフに登録。以来、教育・子ども関連を中心に、学内外で数々の活動に携わってきた。

とりわけ大きな自信につながったのが、3月に東京で開かれた「第6回学生ボランティアと支援者が集う全国研究交流集会」の実行委員となり運営を担った経験だ。昨秋から毎週

のように上京してミーティングを重ね、約30人の仲間たちと当日の内容やゲストスピーカーなどを決めていった。そして迎えた本番の3日間には国内外から約800人が参加。そこで裏方として、時にファシリテーターとして、分科会や交流会などのプログラムがつつがなく進行するよう尽力した。

夢中で駆け抜けた数カ月間を振り返り、達成感を得られた反面、「もっとできることがあったはず」とも感じているそう。それでも、「責任をひしひしと感じる中、つらい時も踏ん張って逃げずにやり遂げたことで強くなれたと思います」と言葉に力を込める。

教員を志し兵教大に入学したものの、小学校教員を目指す」と決断したのは、意外にもごく最近だという。「いろいろな活動をするうちに迷いが生まれたのですが、保護者以外で子どもの生活に一番長く関われるのはやっぱり小学校の先生だと思うので」。理想は児童一人一人が伸び伸びと自分らしさを出すことができる学級づくり。ボランティアで培った気付きや経験を存分に発揮できる日を心待ちにしている。